

# ～ 海洋島 ～

第4巻 第7号 (通巻36号)

東京都小笠原水産センター

2003年1月30日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545

Fax. 04998-2-2546

## カームに衝突 月夜に座礁

カームとは風(なぎ)のことで、荒天の時には真剣に舵を握っているが、気を抜いた時に衝突したり座礁したりするという船乗りの戒めの言葉です。

最近も、これは風の日ではありませんでしたが、伊豆大島の自動車運搬船や日立港の貨物船の座礁事故がおり、近隣の漁業者は大変な迷惑を被りました。小笠原諸島においても、平成14年、当漁業無線局が把握している海難事故だけで6件ののぼっています。

小笠原は四方を広い海に囲まれ、海とともに生活していなくてはならないという宿命を負っています。注意していても海の事故は起こります。起こった時にどうするか、それを考えておく必要があると思います。

一昨年の7月に太平洋を2,000キロ、37日間漂流して「スイカが流れてこないかな」の妄想にかられた武智船長の繁栄丸遭難事故がありましたが、過去にも危うくこの船長の二の舞になるところだった事件は小笠原諸島においてもあり、ひとつではありません。同船の連絡手段は携帯電話だけ、航海計器もコンパスだけ、GPSもレーダも装備されておらず、自分がどこにいるのかさえも分からないというお粗末さでした。無線機設置をケチったおかげで、家族、友人、漁協や関係者にどれだけ心配をかけたことでしょうか。

携帯電話に使用する電波は周波数が高く、光に近い性質のため直進性が高く、島の近くでも島影や深い入り江などでは通じません。茨城県の小型トロール船が荷崩れを起こして沈没した事件では、船長はいざ事故が発生するとパニックになり携帯電話のある場所さえ分からなくなり、ようやく探し出しても、今度は電話番号が分からず苦労したといえます。やはり、緊急時には、無線機が一番です。無線が一番近くにいて船舶が助けに来てくれる可能性が高く、そのやり取りを、沿岸の無線局や他の船舶も傍受しているので、関係者が情報を共有でき、救援体制をとりやすいという利点があります。また、最新の気象情報や航行警報、津波警報等の情報も得ることができます。

平成15年には、父島・母島の漁船に無線機換装が予定

されていますので、漁船だけでなく、遊漁船も、ぜひ漁業無線に加入して欲しいと思います。

繁栄丸漂流記より

「船は数日間流され続けていた。事態の深刻さにやっと気付いた。海をなめていた」

## アカハタの稚魚を放流しました

水産センターでは、昨年、アカハタ稚魚を生産するための技術開発試験を実施しました。この過程で生産されたアカハタの稚魚を、昨年10月と本年1月に西島・母島の沿岸に放流しました(写真1)。放流に先立ち稚魚をALC(アリザリンコンプレクソン:染色剤)溶液のなかで1日ほど飼育し、鱗を染色標識しました。この標識は何年間も残り、採捕した魚の鱗を取って蛍光顕微鏡で見ると染色した時の体長に応じた場所が線状に光って見えます。放流日、放流場所は下記のとおりです。

放流場所	放流日	放流数	平均体長
西島東	2002年10月22日	1,777尾	14.4cm
母島南京浜	2003年1月16日	2,000尾	8.6cm

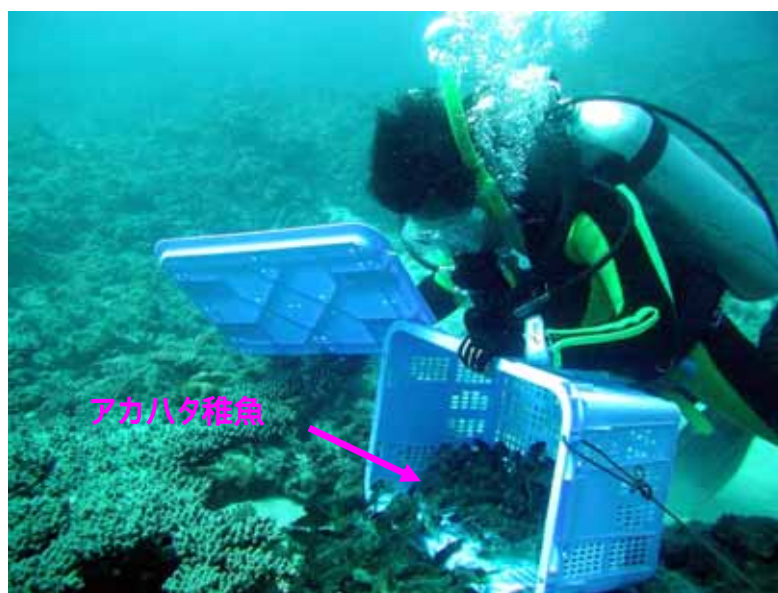


写真1 母島南京浜でALC標識したアカハタを放流

放流直後の減耗を抑えるため潜水しサンゴの下へ誘導しながら放す